

GREENITY IWATA



敷地南からの鳥瞰。建物の前面に広く開かれた庭を設け地域を迎い入れる構えとした。地上の緑が段々形状の建物にも連続する。

環境を紡ぎ地域を育む GRAND COMMUNITY - 丘に吹く風がつなぐ、人と自然のホテル -

私たちは、長年にわたり地域に親まれてきた「グランドホテル」を、これから先50年を見据えた新たなスタイル「GRAND COMMUNITY HOTEL (グランドコミュニティホテル)」として再構築した。このホテルは、地域・自然・人々のつながりを結び直し、コミュニティの核となる居場所を形成することで、共に豊かに発展していくことを目指している。

敷地は、静岡県西部を流れる天竜川が形成した磐田原台地の東端に位置し、国道と県道が台地をえぐるように通っていることから、まるで「そびえ立つ丘」のような印象を与えている。北には、日本一のとんぼの生息地である桶ヶ谷沼が広がり、地域によって守られてきた豊かな自然環境が残されており、東の富士山を望み、西には市街地越しに赤く染まる夕陽が印象的に沈む。

来訪者は、ガーデンで開催されるマルシェに参加したり、温泉やサウナで日常の疲れを癒したり、ラウンジやレストランでガーデンを眺めながら食事を楽しむことができる。このように、地方ならではの体験ができるホテルとして、ランドスケープと多様な用途が絡み合う居場所を創出した。建築コンセプトは「丘に吹く、風の建築」とした。丘の上ならではの眺望や光、風、緑といった特異な自然環境に呼応し、目的やシーンに応じて構成された空間を立体的に組み合わせた。これからの時代に柔らかく軽やかに向き合い、自分らしく心地よい時間を過ごす場所として、“新しい風を吹かせたい”という想いを込めている。

宿泊や挙式、イベントなど非日常の体験と、地域の人々が集う日常の風景といった相反する関係を受け入れるようにこの土地に根づく緑に人々は集い、賑わう風景こそが、ホテル名「GREENITY IWATA」としたゆえんとなっている。

地域を迎え入れる敷地と建物の形状

従前の磐田グランドホテルは敷地全体に各用途の建物が散りばめられて配置され、その建物同士の隙間を埋めるように独立した庭の緑が点在していた。そのため、ホテル利用者以外に対しては閉ざされた配置であった。建て替えに伴い、分散した用途を集約させ、広く開かれた庭を作り、敷地と建物全体が地域を迎える形状を考えた。

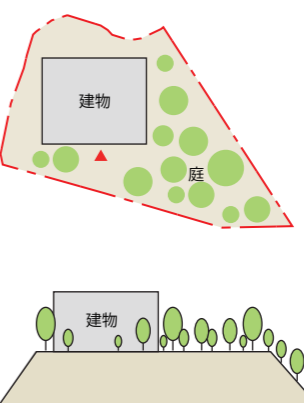
まずは、敷地全体に散りばめられた建物を1つの大きなボリュームに集約し、主動線となる南側道路から距離をとって配置した。建物を敷地北に寄せることで、敷地南の広いスペースを庭とし、地域に開く場所を作った。さらに、敷地の南側の台地を段々形状に切下げ、上下方向においても街に対して手を差し伸べるように、敷居を低い構えとした。そして、段々形状の敷地に連続して建物も段々形状とし、建物へと導いていく。

地域に根ざす場所として、敷地全体が地域に寄り添い、緑豊かな心地の良い場所を目指した。

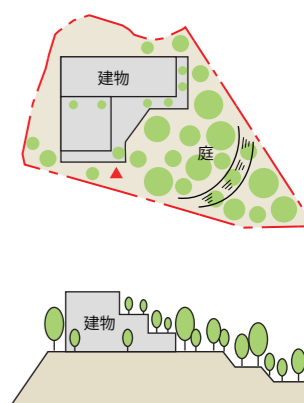
①従前の配置は、建物と庭が分散された配置



②建物を北側に集約し、南側に庭を配置



③敷地南から建物に掛けて段々形状とする





環境の特性を表現する外装計画

丘の上の建築として、磐田原大地の地形や性質を外装仕上げの要素に取り入れることを考えた。外装材は主に、石器質ポータータイル、セラミック大判タイル、天然石、コンクリート打ち放し仕上げの4つで構成し、風土に呼応する意匠を目指した。客室の外壁部分のポータータイルは地層のように3種類のタイルを目地幅に変化を付けている。エントランス部分は大きな岩のボリュームに見立て、3種類の大判タイル貼りで構成し、出入口部分は岩がうがかれ断面が露出する様相を黒の天然石で表現している。そして、これらのボリュームの間を取り持つように、コンクリート打ち放しのフレームが無垢な建築の要素として現れている。これらの仕上げは、ホテル内の主な用途に合わせて使い分け、それらが絡み合うホテルの在り方そのものであると考えている。地域に根差す建築として、時間を蓄積できる器を与えた。

